

テ形文の機能と用法

1LT15019E 梅田夏南

1. はじめに

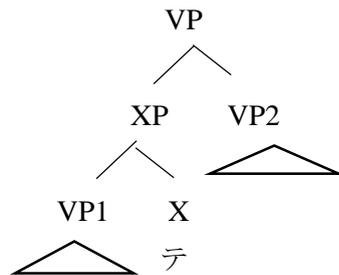
内丸(2006)は、テ形文の統語構造を明らかにするために「しかーない」テスト、「さえ」焦点化テスト、擬似分裂文テストを行っている。これに基づいて考察をし、以下のようにテスト結果をまとめている。

(1)

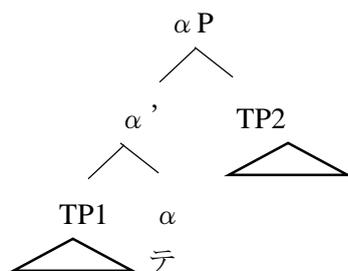
	「しかーない」テスト	「さえ」焦点化テスト	擬似分裂文テスト
手段・方法	適格	適格	適格
付帯状況	適格	適格	適格
逆接	不適格	不適格	不適格
並列	不適格	不適格	不適格
継起	不適格	不適格	不適格
原因・理由	不適格	不適格	不適格

この結果、内丸(2006)は、手段・方法と付帯状況は VP 位置で付加構造を取り、他の用法は TP 位置で等位構造を取ることを提案する。

(2)



(3)



しかし、本当に用法によってこれらの3つのテストの結果が分かれるのだろうか。本論文では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」¹から広くテ形文の例を集め、これらのテストの再検討を行う。

2. 「しかーない」テスト

動詞のテ形に「しか」を後接し、テ形節に後接する節に否定辞「ない」をつけると、付帯状況を表すテ形節は適格になり、継起、原因・理由、並列を表すテ形節は不適格になると内丸(2006)は述べている。

- (4) a. 太郎は歩いて学校に行った (付帯状況)
b. 太郎は歩いてしか学校に行かなかった [内丸 2006:23,(3)]
- (5) a. 太郎はウイスキーを貰って一口飲んだ (継起)
b. *太郎はウイスキーを貰ってしか一口飲まなかった [内丸 2006:23,(4)]
- (6) a. 姉は気持ち悪がってその置物をどこかへしまった (原因・理由)
b. *姉は気持ち悪がってしかその置物をどこかへしまわなかった
[内丸 2006:24,(5)]
- (7) a. 道幅が狭くなって路が急になった (並列)
b. *道幅が狭くなってしか路が急にならなかった [内丸 2006:24,(6)]

しかし、次の例の場合、用法にかかわらず適格となり、内丸(2006)の主張に反する。

- (8) a. 夕食後、シャワーを浴びて、歯を磨いた。 (継起) [仁田 2014:420]
b. 夕食後、シャワーを浴びてしか、歯を磨かなかった。
- (9) a. 花子は風邪を引いて学校を休んだ。 (原因・理由) [仁田 2014:420]
b. 花子は風邪を引いてしか学校を休まなかった。
- (10) a. 花子は銀行へ行って、デパートへ行った。 (並列) [内丸 2006:31(29)]
b. 花子は銀行へ行ってしか、デパートへ行かなかった。

¹大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所による「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を利用した。

3. 「さえ」 焦点化テスト

内丸(2006)によると、テ形節に後接する節に「さえ」をつけると、付帯状況を表すテ形節は「さえ」により焦点化され、「さえ」の領域内にある解釈を取るため、テ形節はVP位置で付加構造を構築する。一方、継起、原因・理由、並列を表すテ形節は「さえ」の領域内にない。

- (11) 花子は[[手をたたいて拍子を取り]さえ]した (付帯状況) [内丸 2006:28,(15)]
- (12) 花子は電車を降りて[[忘れものに気づき]さえ]した (継起) [内丸 2006:26,(16)]
- (13) 花子は風邪を引いて[[学校を休み]さえ]した (原因・理由) [内丸 2006:26,(17)]
- (14) 花子は先々週グアムへ行って先週[[サイパンへ行き]さえ]した (並列) [内丸 2006:26,(18)]

しかし、次の例の場合には、内丸(2006)の主張に反する。

- (15) a. 卓袱台は脚を折って壁に立てかけておけば、 (付帯状況) [伊藤武 スパイスの冒険]
b. 卓袱台は脚を折って[壁に立てかけておき]さえ]する。
- (16) a. 僕は自転車に乗って学校まで来た。(手段・方法) [仁田 2014:420]
b. 僕は自転車に乗って[学校まで来]さえ]した。
- (17) a. 人の家の庭に勝手にはいつて、踏んで行く。(継起) [Yahoo!ブログ]
b. [人の家の庭に勝手にはいつて、踏んで行き]さえ]する。
- (18) a. 本能衝動が活発になって無秩序な行動を起こす。(原因・理由) [三井田惇郎 教育催眠とその技法]
b. [本能衝動が活発になって無秩序な行動を起こし]さえ]する
- (19) a. その仏像は一昨日は居間にあって、昨日は客間にあった。(並列) [三原 1997a:29,(12)改変]

b. その仏像は[一昨日は居間にあって、昨日は客間にあり]さえ]した。

(20) a. あれだけ叱られて、まだ止めない。(逆接) [仁田 2008:402]

b. [あれだけ叱られて、まだ止め]さえ]しない。

4. 擬似分裂文テスト

内丸(2006)は、テ形節の擬似分裂文化には移動操作が加えられ、付帯状況を表すテ形節は適格だが、継起、原因・理由、並列を表すテ形節は不適格であると述べている。

(21) a. 花子はしゃがんで絵を描いた(付帯状況)

b. 花子が絵を描いたのは、しゃがんでだ [内丸 2006:29,(19)]

(22) a. 花子は洗面所に辿り着いて水道栓をひねってみた(継起)

b. *花子が水道栓をひねってみたのは、洗面所に辿り着いてだ
[内丸 2006:31,(25)]

(23) a. ラリーが少しおなかをこわしていて元気がない(原因・理由)

b. *ラリーが元気がないのは、少しおなかをこわしていてだ
[内丸 2006:31,(27)]

(24) a. 花子は銀行へ行って、デパートへ行った(並列)

b. *花子がデパートへ行ったのは、銀行へ行ってだ [内丸 2006:31,(29)]

しかし、次の例の場合には、内丸(2006)の主張に反する。

(25) a. 洗い桶に水を張っといて、その中に流しに運んだ食べた後の食器を浸けといたりするでしょ?(付帯状況) [Yahoo!知恵袋]

b. *その中に流しに運んだ食べた後の食器を浸けといたりするのは、洗い桶に水を張っといてだ。

(26) a. そんな環境にあつてもえなりクンは自分を律していた。(逆接)

[蔭山敬吾 芸能界デビュー はじめての実践知識]

b. えなりクンが自分を律していたのは、そんな環境にあつてもだ。

継起、原因・理由、並列に関しては、テスト結果の例外が見つからなかった。

5. 終わりに

内丸(2006)が挙げた「しかない」テスト、「さえ」焦点化テスト、擬似分裂文テストをテ形文の用例に適用したところ、内丸のテスト結果の主張に反する例があることが確認できる。この中でも、内丸(2006)の主張に反する例文数が多い用例と、そうではない用例とに分かれた。

(27)

用法	「しかない」テスト		
	主張通りとなった例文数	主張に反する例文数	例文総数
手段・方法	5	1	6
付帯状況	1	1	2
逆接	3	2	5
並列	13	1	14
継起	14	15	29
原因・理由	9	5	14

(28)

用法	「さえ」焦点化テスト		
	主張通りとなった例文数	主張に反する例文数	例文総数
手段・方法	1	6	7
付帯状況	8	5	13
逆接	1	4	5
並列	12	2	14
継起	25	3	28
原因・理由	11	4	15

(29)

用法	擬似分裂文テスト		
	主張通りとなった例文数	主張に反する例文数	例文総数
手段・方法	7	1	8

付帯状況	9	5	14
逆接	4	1	5
並列	14	0	14
継起	27	0	27
原因・理由	15	0	15

継起や原因・理由に「しかーない」テストを適用した結果には、ばらつきが特に多かった。同じ「しかーない」テストでも、用法によってこれほど差が出る理由については、はっきりと結論を出すことはできなかった。

「さえ」焦点化テストは文脈に依るところもあり、テストとしては判断が困難だったが、内丸(2006)の予想に反する例文は少なかった。また、擬似分裂文テストも内丸(2006)の予想に反する例文がほとんど見られなかった。「しかーない」テストと異なる点である。

以上のことから、用法によって3つのテストの結果が分かると断定できない。これらテストをテ形文の分類に使うには根拠が弱いといえる。

参考文献

内丸裕佳子 (2006) 「形態と統語構造との相関—テ形節の統語構造を中心に—」筑波大学博士論文

仁田義雄 (2014) 『日本語文法事典』大修館書店

日本語記述文法研究会 (2008) 『複文』(現代日本語文法 6) くろしお出版